

日本地震工学会の防災研究の 取組と他学会との連携

日本地震工学会 副会長
大堀道広（滋賀県立大学）

1

講演の内容

- 学会の概略
- 歴代会長・主なイベント
- 東日本大震災合同調査報告
- 17JEES（第17回日本地震工学シンポジウム）
- JEES主催に見られる他学会との連携
- 国際交流事業
- 海外・国内の地震災害への対応例
- 将来構想委員会の設置
- ごく最近の活動報告
- まとめに代えて

2

学会の概略

- 設立
 - 地震工学会は、地震工学に関連する各分野の研究を横断的にとらえることを目的に任意団体として2001年に発足した。その後、更なる活動の充実を図るために、2010年に一般社団法人へ移行、2013年に公益社団法人の認定を取得し、現在に至る。
- 設立趣旨（2001年1月1日）
 - 「地震防災に関する地震学、応用地質学、構造工学、地盤工学、鋼構造ならびにコンクリート工学、振動制御工学、ライフライン工学などの分野と、地域防災計画、クライシスマネージメント、リスクマネージメントなどの社会システム分野をカバーする普遍的な学会として、『地震工学会』を設立する。」
- 主な活動の特徴
 - 地震工学に関する研究の推進と情報共有
 - 関連5学会（地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本地震学会）と連携し、地震調査や研究を共同で実施
 - 年次大会や研究発表会の開催⇒2027年大会では日本地震学会と合同セッションを企画
 - 日本地震工学シンポジウム（JEES）の幹事学会
 - 学会誌「日本地震工学会論文集」の発行
- 会員数（2025年12月5日現在）
 - 名誉会員41名、正会員965名、学生会員99名、法人会員103社

↓
月火水木金 日本地震学会
月火水木金 日本地震工学会

3

歴代会長・主なイベント

歴代会長の力強いリーダーシップのもと、
日本地震工学会は四半世紀の節目を迎えた。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| • 山中 浩明 氏 (2025年5月22日～2027年5月 日) | • 2026.11 17JEESの開催 |
| • 高田 毅士 氏 (2023年5月23日～2025年5月21日) | • 2025.01 阪神淡路大震災30周年シンポジウム |
| • 清野 純史 氏 (2021年5月25日～2023年5月23日) | • 2022.11 16JEESの開催 |
| • 中埜 良昭 氏 (2019年5月24日～2021年5月25日) | • 2021.09 17WCEEの開催 |
| • 福和 伸夫 氏 (2017年5月19日～2019年5月24日) | • 2021.08 第6回ESG国際シンポジウム |
| • 目黒 公郎 氏 (2015年5月22日～2017年5月19日) | • 2020.09 17WCEEの開催延期 |
| • 安田 進 氏 (2013年6月1日～2015年5月22日) | • 2018.12 15JEESの開催 |
| • 川島 一彦 氏 (2011年6月1日～2013年5月31日) | • 2014.12 14JEESの開催 |
| • 久保 哲夫 氏 (2010年6月1日～2011年5月31日) | • 2013.05 公益社団法人へ移行 |
| • 濱田 政則 氏 (2009年6月1日～2010年5月31日) | • 2012.03 東日本大震災国際シンポジウム |
| • 鈴木 浩平 氏 (2008年6月1日～2009年5月31日) | • 2010.11 13JEESの開催 |
| • 北川 良和 氏 (2007年6月1日～2008年5月31日) | • 2010.02 一般社団法人に移行 |
| • 大町 達夫 氏 (2006年6月1日～2007年5月31日) | • 2010.01 阪神淡路大震災15周年フォーラム |
| • 小谷 俊介 氏 (2005年6月1日～2006年5月31日) | • 2006.11 12JEESの開催 |
| • 入倉孝次郎 氏 (2004年6月1日～2005年5月31日) | • 2005.01 阪神淡路10周年国際シンポジウム |
| • 石原 研而 氏 (2003年6月1日～2004年5月31日) | • 2005.01 日本地震工学会誌（冊子体）の発刊 |
| • 土岐 憲三 氏 (2002年6月1日～2003年5月31日) | • 2003.00 EERI（アメリカ地震工学会）との研究協力協定 |
| • 岡田 恒男 氏 (2001年6月1日～2002年5月31日) | • 2002.11 11JEESの開催 |
| • 青山 博之 氏 (2001年1月1日～2001年5月31日) | • 2001.12 日本地震工学会論文集の発刊 |
| | • 2001.01 任意団体として発足 |

4

東日本大震災合同調査報告

- 2011年3月11日の東日本大震災発生に伴い、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本地震学会、日本地震工学会、日本都市計画学会の8学会は、この未曾有の災害に対し、学会間の連携を図るべく合同編集委員会を設置し、調査活動を実施した。
- 8年間の多くの研究者・実務者の献身的な努力により、全28編を出版した。
(2012/04～2019/07に刊行)
- 詳細：
https://www.jaee.gr.jp/jp/stack/report_geje/



17JEES (第17回日本地震工学シンポジウム)

- 開催日時：2026年11月26日(木)～28日(土)
- 開催場所：熊本城ホール
- 主催：日本地震工学会 (幹事)、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本地震学会、地域安全学会、日本活断層学会、日本災害情報学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会、日本都市計画学会
- 後援：熊本市、熊本県、国土交通省 九州地方整備局
- テーマ：
熊本地震から10年
災害の多様化時代における地震工学の再定義
～ 最新技術と社会連携で拓く、災害に強いレジリエントな社会の創造 ～
- 詳細：<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jees2026>

開催情報

お知らせ(2)

ご挨拶

開催概要

会場アクセス

委員会

技術展示 / 協賛

技術展示出展募集

協賛募集

論文募集

オーガナイズドセッション募集

論文募集



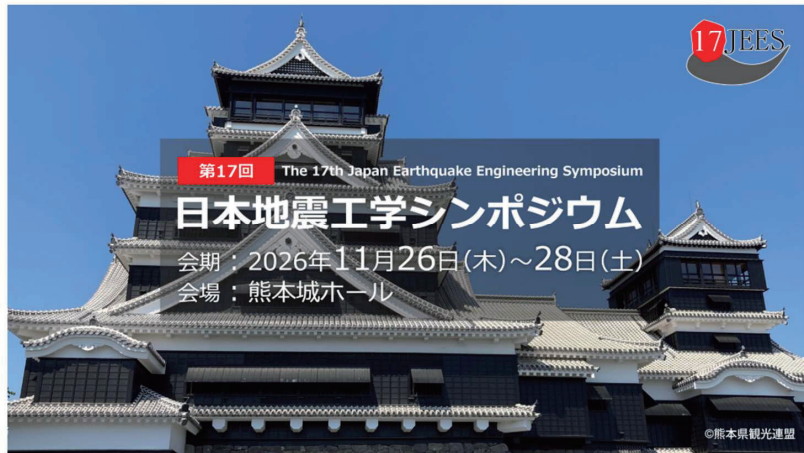
第17回

日本地震工学シンポジウム

The 17th Japan Earthquake Engineering Symposium

会期：2026年11月26日(木)～28日(土)

会場：熊本城ホール



【テーマ】

熊本地震から10年

災害の多様化時代における地震工学の再定義

～ 最新技術と社会連携で拓く、災害に強いレジリエントな社会の創造 ～

お問い合わせ

第17回日本地震工学シンポジウム
運営委員会

<委託先運営事務局>
株式会社防災ログ
TEL.050-5357-2772
Email : office@bousailog.com

<後援についての問合せ先>
公益社団法人日本地震工学会
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20
建築会館日本地震工学会
Tel : 03-5730-2831
Fax : 03-5730-2830
Email :
2office@general.jae.e.g.jp

17JEES 重要な期日 (予定)

2025年11月上旬	OS募集開始
2026年2月2日 (月)	OS募集締切
2026年2月中旬	OS採否通知
2026年3月上旬	アブストラクト投稿開始
2026年4月28日 (火)	アブストラクト投稿締切
2026年6月上旬	アブストラクト採否通知
2026年7月1日 (水)	論文投稿開始
2026年8月31日 (月)	論文投稿締切
2026年10月上旬	セッション・プログラム決定
2026年11月26日～28日	シンポジウム
2027年3月31日 (水)	査読付き論文最終投稿期限
2028年3月	査読付き論文刊行完了

JEES主催に見られる他学会との連携

- 13JEES (2010@つくば) ;
 - 日本地震工学会 (幹事)、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本地震学会、震災予防協会※、地域安全学会、日本活断層学会、日本災害情報学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会
 - ※震災予防協会は日本地震工学会の設立を強力にサポートした。さらにその多くの役割と防災関連学会を結びつける意志を引き継いで、その役割を終えた。 [武村 (2010)]
- 14JEES (2014@千葉) :
 - 日本地震工学会 (幹事)、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本地震学会、地域安全学会、日本活断層学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会
- 15JEES (2018@仙台) :
 - 日本地震工学会 (幹事)、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本地震学会、地域安全学会、日本活断層学会、日本災害情報学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会
- 16JEES (2023@横浜) & 17JEES (2026@熊本) :
 - 日本地震工学会 (幹事)、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本地震学会、地域安全学会、日本活断層学会、日本災害情報学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会、日本都市計画学会

9

国際交流事業

- 17WCEE (第17回世界地震工学会議) の仙台開催の招致
 - 日本地震工学会、日本学術会議が主催
 - 新型コロナウイルス感染症拡大
 - 2020年9月当初開催予定⇒2021年9月26日～10月2日に延期して開催
 - ハイブリッド形式
 - 72か国・地域 3,123人 (国外: 2,125人、国内: 998人) の参加
- 学術研究交流を目的とした基本協定の締結:
 - 2022年11月11日@台湾・台北
台湾・国家地震工程研究中心 (National Center for Research on Earthquake Engineering, NCREE) と台湾地震工学会 (Chinese Taiwan Society for Earthquake Engineering, CTSEE)
 - 2023年1月27日@タイ・バンコク
タイ王立工学会・土木工学部門 (Chapter on Earthquake and Wind Effects on Buildings and Structures in Engineering Institute of Thailand, EIT)
 - 2025年3月19日@韓国・釜山
韓国地震工学会 (Earthquake Engineering Society of Korea, EESK)

10

海外・国内の地震災害への対応例

本会の地震災害対応活動の企画、調整、実施等を行うことを目的に以下の活動を行った。

1) 以下の地震について、情報収集を行い、web を通じた情報発信等の対応を行った。

- ・2023年5月5日14時42分頃の石川県能登地方を震源とする地震について
- ・2023年5月11日04時16分頃の千葉県南部の地震について
- ・2023年9月8日午後11時11分のモロッコを震源とする地震について
- ・2024年1月1日16時10分頃に発生した令和6年能登半島地震

2) トルコ・シリアの地震に対する被害調査

- ・土木学会、日本地震工学会の合同調査団による調査
- ・井上和真氏（群馬高専准教授）、志賀正崇氏（長岡技術科学大学助教）へ調査補助費用を補助

3) 地震被害調査報告会の開催

- ・土木学会、日本地震工学会の合同調査団による調査
- ・日本地震工学会誌第50号の原稿作成（2023年2月に発生したトルコ南部の地震（M7.7, M7.6）

に関する被害調査報告会（速報）について）

- ・土木学会地震工学委員会主催、土木学会海岸工学委員会、地盤工学会、日本地震工学会共催で、「令和6年能登半島地震（M7.6）に関する速報会」実施

4) 令和6年能登半島地震関連

- ・情報収集と関連学会との連携

[公益社団法人 日本地震工学会 第12回社員総会・令和5年度（2023年度）事業報告より抜粋] 11

将来構想委員会の設置

「若手中堅交流会」での自由闊達な議論と、若手研究者・技術者を対象としたアンケート調査結果を踏まえて、理事会の委員会活動および学会運営に関する以下の8項目について集中的に検討し、「日本地震工学会の将来に向けた提案」と題する報告書を提出した。

- (1) 年次大会：運営の効率化、開催方法の見直し、国内外との連携
- (2) 論文集：投稿数増加のための施策、国際発信力の強化
- (3) 会誌・ニュースレター：棲み分けと内容の見直し、一般向け情報発信の強化
- (4) 研究委員会：研究活動の活性化、成果の会員への還元
- (5) 国際活動：国際発信力の強化、国際研究協力の推進
- (6) 事業企画：イベント開催方法、広報戦略、分野横断企画、アーカイブ構築
- (7) 学会運営：学会間連携、理事の業務執行の改善、広報機能の強化、運営管理システム強化
- (8) 会員増への戦略：入会者減少への対策、若手向けの施策

会員減少⇒学会の経済状態の悪化⇒学会活動に深刻な影響⇒会員減少の加速

 定年退職者のつなぎとめ、学生の正会員定着

ごく最近の活動報告

- 「阪神・淡路大震災から30年 -地震工学の再定義と今後のアジェンダ-」
 - 2025年1月23日@建築会館（東京） & ハイブリッド形式
 - 後援：日本地震学会、土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本機械学会
- 「地震工学分野におけるDXに関する講習会・研究会」
 - 2025年5月29日@建築会館（東京） & ハイブリッド形式
 - 後援：日本地震学会、土木学会、日本建築学会、地盤工学会
- 日本地震工学会・大会－2025
 - 2025年12月9日～10日@沖縄県市町村自治会館（那覇）
 - 一般セッション+国際セッション
 - 地震工学技術フェア
 - ランチョンセミナー：研究×実務の交差点－地震工学で拓く“わたしの進路”2025⇒学生向けの進路を考えるイベント（大学、研究機関、企業で活躍する地震工学の専門家との昼食会）

13

まとめに代えて

本報告のまとめに代えて、山中浩明会長（東京科学大学）の就任の挨拶より、今後2年間の活動に向けたメッセージにあたる箇所を抜粋し、紹介します。

『今後も地震防災に関する多様な分野のシニア、中堅、若手の研究者、技術者、さらには学生が世代と分野を超えて活発に議論できる場を日本地震工学会が提供し続けるために、次の四半世紀に向けた日本地震工学会の進むべき持続可能な学会運営を始める2年間とすべく努力いたします。よろしくご協力、ご支援をお願いいたします。』



[山中浩明会長の就任（2025年5月21日）の挨拶より
(<https://www.jaee.gr.jp/jp/general/greeting/>)]

14